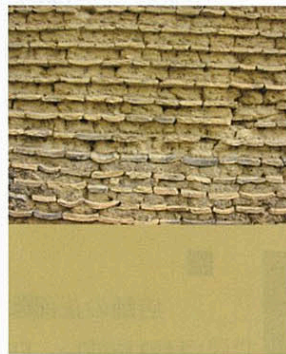
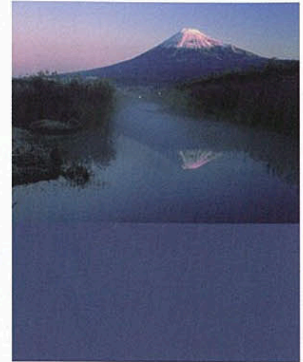
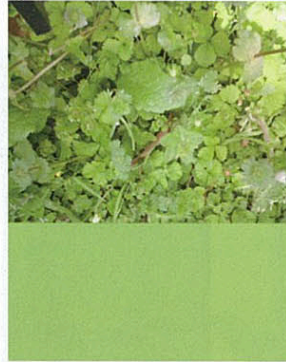




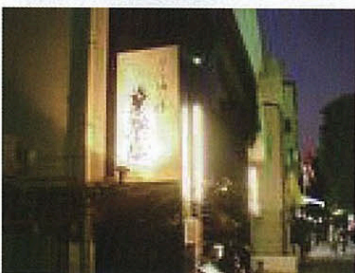
看板は店の個性や特徴を反映させたものにする。商店街全体で画一的に形を決めるのではなく、街の雰囲気を変えないような最低限のルールをつくる。店毎の飾り看板で、歩行者の目を楽しませる。



店舗の正面は、木、布、瓦、煉瓦など、伝統的な材料を使い、FRP（繊維強化プラスチック）などの樹脂パネルなどは極力避ける。



■ 建物の色合いは、砂や土、樹木や草花など、自然の中から生まれた色合いを使う。プラスチックの人工的な光沢色は極力避ける。風景になじむ色合いは、大地と、そこから生えた樹や草花にヒントがある。



■ 夜間、閉店後も、ショウウィンドウなどには明かりを灯し、商品が見られるようにするとともに、街路を照らし、歩行者に安心を与える。店全体を覆うようなシャッターは極力避け、シースルーシャッターなどで、夜のウインドウショッピングができるような、店の見せ方を工夫する。



工房や飲食店の工房は、通りや客席から見えるようにし、お客様の目を楽しませる。墨田区はものづくりの街であり、「工房ショップ」は墨田区全体で推進している3M運動の一環となっている。

16

b. 建築

身近な緑



通り沿いの緑は通りに潤いをもたらすが、現状の緑は必ずしも快適なものになっていない。公共の整備する植栽を魅力的なものにすると共に、各個店が店先に季節感を演出するような花や緑を置くと、通りに彩りがでる。